

純正館

(同志社女子大学)



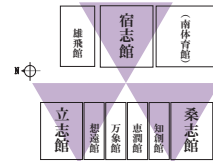
(竣工：2008年9月)

現在の純正館は、今出川キャンパス東門のそばに2008年9月に竣工しました。同じ場所に1962年1月に竣工した旧・純正館は、地階と1階に普通教室、2階に体操場を設けて授業に利用し、スポーツフェスティバルやホームカミングデー懇親会など様々な行事の会場としても用いられました。建物の名称は、ピリピンへの手紙4章8節「すべて正しいこと、すべて純真なこと」に由来しています。

現在の建物は、2009年4月の表象化学部開設に伴って建て替えられ、講義等に使用される教室棟と、多目的棟（デントンホール）の2棟からなり、地下と連絡通路とでつながっています。今出川通沿いの教室棟は、その景観を生かして最上階に屋上庭園やアカデミックラウンジが設置されており、屋上庭園からは五山送り火で知られる大文字山を眺めることができます。また、アクティブラーニングに対応した可動式の机やプレゼンテーション装置を備えた教室も設置されています。北側の多目的棟には、全国的にも珍しい半地下のアリーナ兼可動式の観覧席（600人収容）を備えたデントンホールがあります。建物内にはトレーニング施設が設置され屋上にはテニスコートもあります。

宿志館

(同志社中学校・高等学校)



2010年度同志社中学校と同志社高等学校の統合・移転。そして、2006年度に誕生した同志社小学校と合わせ、ここ岩倉の地が、学校法人同志社の初等中等教育の一大拠点として新しい歴史がスタートいたしました。これを機に、創立者の熱き思いが受け継がれるよう、「志」を冠したメインの建物をトライアングルに配置し、これらが中高統合の象徴となり、また生徒たちが創立者の期待に応え、崇高な「志」をもちやがて世のため、人々のために尽くすことを願い、各建物の名称が決定されました。

『宿志館』は、「同志社大学設立の旨意」の「……明治七年、余が米国より帰朝するに際し、適ま北米合衆国外国伝道会社の集会ありき、米国の紳士貴女、会する者三千余名、……此に於て始めて平生の宿志を開陳して曰く、今や我が日本は、社会の秩序破れ、紀綱乱れ、人心帰着する所を知らず、今日に於て、我が日本に文化の美光を来さんと欲せば、宜しく欧米文化の大本たる教育に力

を用ひざる可からず、……」より採られ命名されました。

この『宿志館』は、中高のほぼ中央に配置され、建物の中には、チャペル（「グレイス・チャペル」1200席）、多目的ホール（「さきがけホール」400席）、食堂（「リバティー・ウイング」250席）、和室（「裏の間」=「Joe House」）、音楽教室、父母の会・同窓会室、等が配され、中高生の毎朝の礼拝等、中高生が日々利用する共用施設として、大いに活用されています。

建物正面には、同志社大学今出川キャンパスにある『彰栄館』の鐘（レプリカ）を設置しました。伝統として受け継がれてきた「司鐘生」により鐘が突かれ一日がスタートします。また、念願であつたパイプオルガンは、2014年、ドイツにて製作を開始し、3年の時を経て、来年2017年の夏、2階後方に設置される予定です。チャペル全体が一つの楽器として、荘厳な音色を奏でてくれる日を楽しみにしています。